

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：

大阪府 箕面市立豊川南小学校

活動名：

研修モデル with コロナ

幼⇔小⇔中、教員も学びを止めない

解決すべき課題：

『中学校区連携強化のための教員研修をどのように行うか。』

箕面市では中学校区ごとに幼、小、中が連携し、子供たちの 10 年あまりの学びを見通し、成長を支えていくため、毎年教員間交流と意見交換、PTA の連携、授業づくり、人権教育などさまざまな観点で教員研修を行ってきた。中学校区内の各校持ち回りで、観点に沿った研修を設定し、その学校に各校から教員が参集し授業参観と討議会をしたり、講師を招き講演会を開催したりしていた。しかしながら、豊川南小学校を含む箕面市立第四中学校区の 1 つの幼稚園、2 つの小学校、1 つの中学の教員を合わせると 1 3 0 人程度になる。豊川南小学校は本年度人権教育の観点で教員研修を行うことになっていたが、コロナ対策を万全にした上で、この人数が一堂に会する場を設定することは難しくそれらの計画が立てられないまま年度がスタートした。

目標・方針：

『100 人超の教員が能動的に参加する中規模な教員研修モデルの構築』

With コロナでも学校内の体制が整い、40 名ほどが集まる校内の研究授業は始まった。授業ビデオをとり、それを学年グループで視聴し討議会をする。討議会で出た授業の成果や課題を大教室で教員同士が距離をとった状態で共有し、今後の授業づくりに生かしていく流れはできた。

一方 100 人を超える教員が集まり、課題を共有する場を設定することは難しかった。そこで『100 人超の教員が能動的に参加する中規模な教員研修モデルの構築』を目標に、次の 7 つ方針のもと活動内容を考案した。

- ・中学校区の課題を共有し、講師を招いて講演会を開催すること。
- ・中学校区の教員（約 130 名）が一堂に会さずに行うこと。
- ・4 月から児童とのオンライン授業で使用してきた web 会議システムを活用すること。
- ・講師の講演を直に聞くライブ会場と web 会議システムを使ったリモート会場を設置すること。
- ・リモート会場を複数設置し各会場が 3 密にならないようにすること。
- ・ライブ会場とリモート会場で研修の質が変わらないよう工夫すること。
(リモート会場の教員が講演を聞いただけにならないようにする。)
- ・テーマを教員間で共有したうえで事前に講師への質問を募り、参加への意欲を高めること。

活動内容：

講師をお招きし、中学校区の課題を鑑みてテーマを「子どもたちの未来を見据えて、私たちが今できること～特別支援教育の視点から～」とし、特別な支援を必要とする子どもたちが大人になって直面することについて講演いただくことにした。幼小中連携の観点から私たち教員が子どもたちの未来を見据え、目の前の子どもたちにできることを考える機会にすることを目的にした。事前に講演で聞きたいこと、または質問を募集しそれを織り交ぜつつ講演いただいた。研修時間は質疑応答も含め 1.5 時間に設定した。

ライブ会場は豊川南小学校にした。講師はライブ会場にいる教員を主に意識して講演。司会が web 会議システムのホストとなり、スライドを画面共有しつつ講師前に置かれた PC から講演の様子をリモート会場へ配信した。各リモート会場では PC を電子黒板につなぎ、数名のグループに分かれて講演を聞いた。

(中規模な教員研修モデルのイメージ図)

ライブ会場とリモート会場の学びの質を確保するため途中ケーススタディを行った。講師の発問から各会場で討議を行い、リモート会場ではチャットに討議内容を記述したものを司会が読み上げ各会場と共有した。

活動の成果：

中規模な教員研修モデルとして汎用性のあるものが構築できた。参会者のアンケートの結果からも今後の研修の形としてライブとリモートの併用への期待が高く、有用性を感じられたように思う。(グラフ 1)

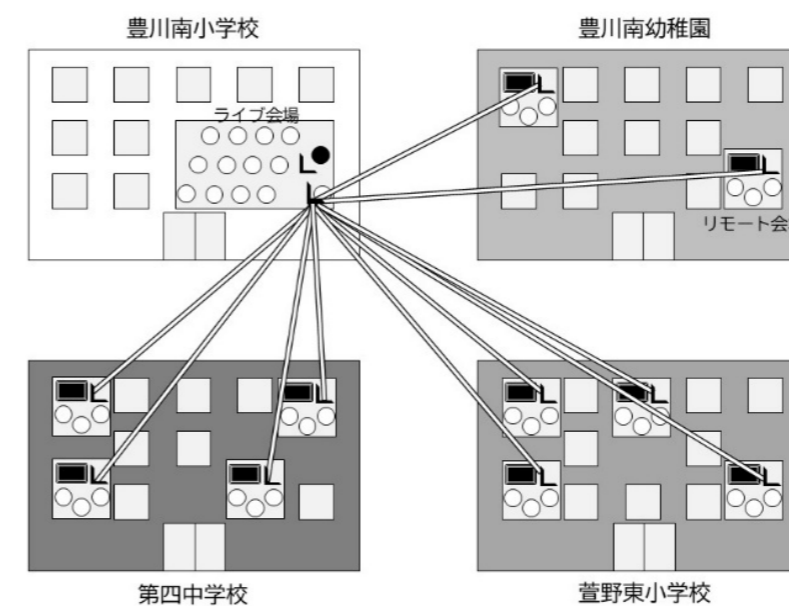
ライブ会場では講師にとっても、web 会議システムの画面だけに向かって話すのではなく会場の反応をみながらできたので講演しやすかったと感想をいただいた。また、リモート会場でも講演内容は聞き取り、運営面の問題なかったようである。(グラフ 2) ケーススタディを設定したこともリモート会場での参加率が高まった要因であった。

しかしながら、やはり状況が許せばライブがよいという意見も少なくない。今回のモデルは自校以外の教員との交流が十分にできず、幼、小、中の教員の風通しを良くすることには寄与できなかった。これは今後の課題である。状況を見ながら今後研修を設定していくことになるが、リモートの良さはコロナ対策もさることながら学校間を移動しなくていいという時間の効率的な利用という面でもメリットがあることが今回わかった。内容や運営の工夫次第では今回の手法は十分に研修のモデルとして使えると思われ、リモート会場同士でブレイクルームを設定するなどすれば教員交流の目的も果たせるのではないかと考える。

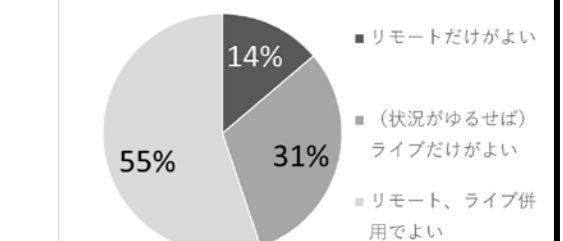
アピールポイント (アイデアや工夫)：

- ・web 会議システムを使った中規模な教員研修モデル
- ・ケーススタディでライブ会場とリモート会場をつなぐ
- ・時間の効率的な利用 (移動時間の節約、延長なしできっちり終わる→働き方改革)

中規模な教員研修モデルのイメージ図

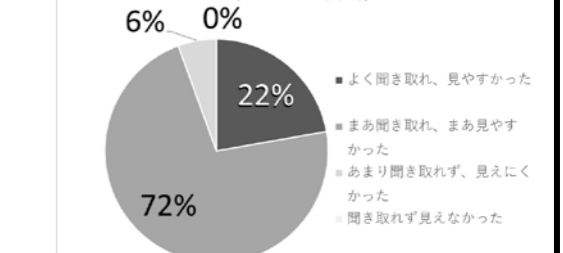


今後校区の研究会をするなら



グラフ 1

聞き取りやすさ、見やすさ (リモート会場)



グラフ 2